

なかしゅんべつ

2008
11
No.370



中春別酪農振興会「収穫祭」
地域の方々が集い、親睦を深めました

去る十月十日、中春別酪農振興会(会長・小原義男)では、紅葉の色鮮やかなこの時期に毎年恒例の収穫祭を開催いたしました。

当日は朝から雨模様でしたが、何とか開始時刻には雨も上がり、曇り模様でし



たが組合員の皆さんを始めご家族の方、実習生の方々が多く集い、予定通り農協グラウンドにて開始しました。

チーム対抗の各種競技大会が行われ、豪華な賞品が用意されていることもあり、地区内の各チーム毎に分か

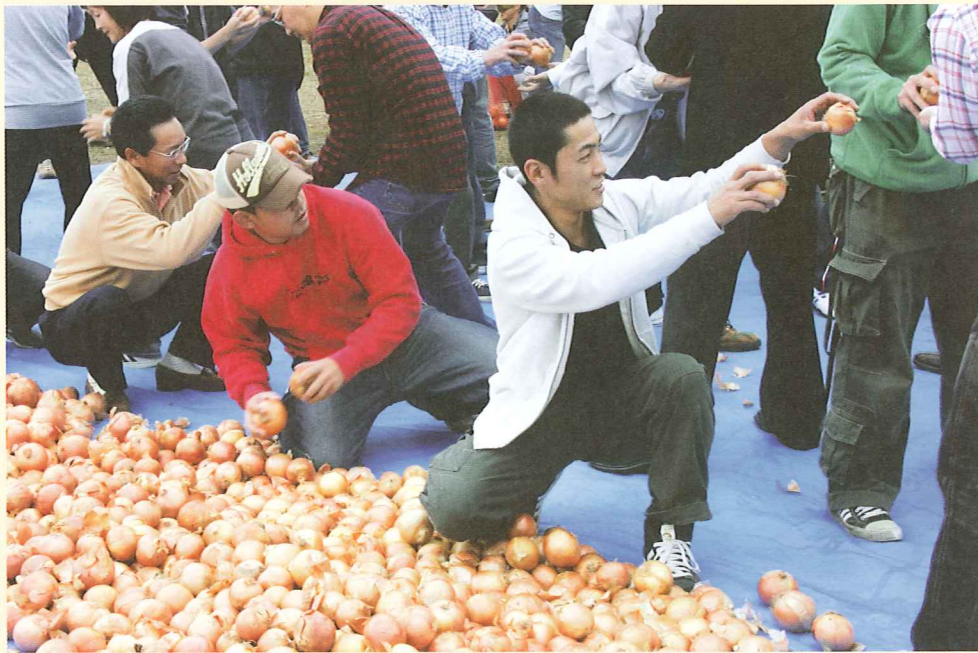
地域の仲間と 懇親を深めた1日

収穫祭

中春別酪農振興会

去る10月10日、中春別酪農振興会(会長・小原義男)では、紅葉の色鮮やかなこの時期に毎年恒例の収穫祭を開催いたしました。

れた皆さん目つきも真剣に優勝目指し、気合が入りました。どの競技もチームワークを各チーム発揮し、会場は大いに盛り上がりました。また、力が入るあまり思いがけないアクシデントなどもあり、歓声に混ざり笑い声も絶えませんでした。



また、たまねぎ拾いリレーでは、より多くのたまねぎを運ぶため各チームそれぞれに入念な作戦を立て、皆さん真剣な中にもユーモアがあり、見ている方も参加している方も大いに楽しまれたのではないのでしょうか。

雨が降ったり止んだりの中、競技終了後は焼肉を囲んでの昼食となり皆さん話に花が咲き箸も進んでおりました。

あいにくの空模様でしたが、地域の皆さんそれぞれの交流が深まったことでしょう。



北海道最大のギガファーム &

2008 北海道ホルスタインナショナルシヨナルシヨウ

本年度の役員研修を去る九月二十五日から二十八日までの四日間に行われ、竹田組合長を団長に役員九人、職員一人参加のもと実施いたしました。

この度は、北海道ホルスタインナショナルシヨウの見学と併せて、配合飼料や原油価格の高騰で苦境に立つ日本の酪農・畜産経営にあつて、十勝管内の大型酪農の実態を視察して参りましたので、その一端を組合員の皆様にご報告申し上げます。

生産調整にも負けず、日本の酪農をリードする牧場「農事組合法人・Jリード」

今回の研修は、十勝管内の酪農家視察から胆振管内の安平町で開催される北海道ホルスタインナショナルシヨウ(全道共進会)見学のため、行程中はバス移動とし、初日(二十五日)は午前九時三十分に出発、午後から十勝管内豊頃町の「農事組合法人・Jリード」(代表理事・井下英透氏)へ入りました。



Jリード井下代表

当牧場設立の背景として、平成十五年の十勝沖地震で既設牛舎が倒壊等被害を受けたこともありましたが、

四戸の酪農家が今後の厳しい農業情勢に立ち向い、共同経営を開始するに至りました。「Jリード」の名称は、日本の酪農をリードするのは北海道であり、いつか日

<牧場の概要>

経営開始 平成17年1月(生産開始同年4月)
 構成員4戸、従業員14人
 飼養頭数 経産牛506頭・育成牛504頭・計1,010頭(平成20年7月現在)
 飼料畑面積 330㍏
 主な施設 フリーストール牛舎四棟(800S)、ロータリーパーラー(40P)、育成舎、哺育舎(哺育ロボット2台)、バンカーサイロ9基、パーラー排水処理施設、堆肥舎、堆肥攪拌乾燥処理施設



前列右から2人目が井下代表

本をリードしていく牧場にしようという思いを込めて名付けたとのこと。

平成十五年四月の生産開始時は、四戸の乳牛百八十頭からスタート、まずは年間四千トの生産を目標とし、その後三百頭を導入、十一月には五百頭となり、四五年後(日十九、日二十)に

は六千トを目指していた矢先、平成十八年度から三年の生産調整が開始されました。十勝では管内が大きく生産の舵取りをしておりませんが、当牧場の生産枠は新規就農枠の二千トであり、規模が大きいと全乳哺育で消化するレベルではなく、百頭減らして四千トを超えた



乳量を三千二百トにまで落としたものの、当然、生産枠は超えており、周囲の目も含めて非常に厳しい環境下にあつたとのことでした。

急激に減産したと思えば、今度は増産という昨今の情勢、そしてこの飼料の高騰は、今日の経営を大いに圧迫しており、乳代に占める飼料費の割合(乳飼比)も営農計画を大きく上回り、営農年度末に向かつては、収支の見通しも非常に厳しい状況にあるとのことでした。各施設の建設にあたっては補助事業費を利用いたしました。約七〇%を占め、井下代表からは、「だから八百頭で、乳価八十円でないと採算が合わない」、また、「償還据置



Jリードの牛舎全景

期間中に育成舎を建てたかったが、この情勢で出来ないでいる」とありました。

そして、この解決策はやはり乳価の引上げとして、自ら発起人を努める「北海道酪農の明日を考える会」によるシンポジウムを開催しJ A北海道中央会や指定生産者団体のホクレンへ要望書の提出、タレントで酪農家の田中義剛氏と東京で牛乳消費PR、また、自らテレビ・新聞に出て酪農家の現状を世間に訴える等、様々な活動を行ないながら、消費者と一体となつた乳価の引上げを期待したいとのことでした。

現在は、経産牛五百二十頭・育成牛五百十頭の計千三十頭となつており、旧施設や公共牧場も利用しながら増産に向かい、本年度は五千ト超えを目標にしております。見込んでおります。一頭当たり九千トを目安に、六群管理で高泌乳牛を日量四十キに設定しておりますが、百頭規模の六群管理は大変容易であるとのこと。また、繁殖管理は万歩計を付け、全ての個体データ管理に利用し、月二回妊娠鑑定を行つておりました。なお、蹄病は悩みの種であり、フットバス(硫酸銅使用)を設置しておりましたが、確たる効果は手探り状態の様子でした。堆肥の処理は、戻し堆肥として牛舎通路に敷いておりましたが、オガ等資材代も膨大であり、経費節減のため冬場は攪拌乾燥装置の稼働を止めているとのこと。規模が大きいなりに、経営経済をみて経費を節減する姿勢が窺えました。

今後さらに、経産牛八百頭へとまい進すると思いますが、井下代表から「立地条件は海から一キロ程であり決して良いとは言えないが、恵まれていた点が二つある。ひとつは、十勝は一般的には土地不足だが当牧場周辺は意外と手に入りやすいこと、もうひとつは、夏場の気温が

道内初の1万ト超のギガファーム

21世紀 未来の酪農を目指す牧場 「有限会社ドリームヒル」

二日目(二十六日)の午前、上士幌町にある北海道で最大の生産量を誇る「有限会社ドリームヒル(代表取締役 小椋幸男氏)」を尋ねました。ここでも、小椋代表と直接お会いすることができましたので、その一端をご紹介します。

まず、当牧場設立の背景ですが、当初は四戸による法人化で、平成十三年後半から個々の酪農経営に対する将来像を考えるようになり、年齢的な面・後継者の面・施設老朽の面等から、同年代・同地域内であつた四戸が悩みを打ち明けるようになつて、厳しい農業情勢に対処すべく、低コストによる規模

二十五度を超さないことで暑熱対策がいらぬこと。」とありました。

この利点を生かしながら、文字どおり「日本をリードする牧場」を実現されたいものです。

<牧場の概要>

設立 平成15年1月(生産開始同年5月)
 構成員5戸、従業員28人
 飼養頭数 経産牛1,220頭・育成牛718頭・計1,938頭(平成20年4月現在)
 飼料畑面積 650㌃(所有地360㌃、借地290㌃)
 平成19年度出荷乳量11,940ト(3回搾乳、4時・12時・18時半)
 主な施設 フリーストール牛舎4棟、ロータリーパーラー(50P)、育成舎3棟、バンカーサイロ5基、パーラー排水処理施設、スラリストア3基、堆肥舎



ドリームヒル小椋代表

千頭搾乳を計画いたしました。現在は、途中の役員入替えもあり、五戸の構成で経営しております。

平成十五年の経営開始時には、資金借入れで乳牛六百頭を導入（五年償還）、その後もリース事業で八十頭導入（五年リース）し、平成十八年度からの生産調整のため初生メスを売却したことで、今年もリース事業で八十頭を導入いたしました。また、経営開始以来、毎年設



備投資を行なっており、今年にはバンカーサイロの建設とスラリー固液分離機を設置中であり、間もなく完成するようです。

飼料畑は六百五十畝ですが、これにコーン畑外部委託の五十畝と計七百畝で経営のうちグラス四百畝・コーン三百畝で、近隣三戸にTMR局を置きながら、配合飼料を主としてエサづくりを行なっております。

なお、哺育は行なっておりませんが、育成舎が不足しているため、妊娠牛二百頭を預託。また、削減は年三回実施しておりますが、蹄病はここでも悩みの種であり、



前列左から2人目はドリームヒルの鈴江専務

フットバス（硫酸銅使用）の設置で対処しておりますが、課題のひとつのこと。パーラー排水処理施設は、現在、法の規制はないものの「規模が大きいだけに対処しないといけない（苦情が出る）」という思いから、周辺にも配慮して設置したようです。

時勢柄、気になる経営収支ですが、やはりこの飼料の高騰により大変厳しいとのこと。事業費八億五千万円でスタートいたしましたのが、毎年投資しているの

借入金は増えており、当初、七百五十頭用の牛舎でしたが、平成十六年十月に千頭にするためフリーバーン建設増頭により生産を伸ばしてきましたが、乳飼比は当初より約一五%上がり、その差が今の経営を苦しめているとのことでした。

規模が大きいだけにその影響も大きく、やはり乳価の引上げに対しての強い思いが語られました。「今後将来の日本の酪農は、本州はますますきつくなる。とかく消費動向を見ないと何と



ドリームヒルの牛舎全景

も」と言われるが、それは飲用乳のことであり、バター・脱脂粉乳が緊急輸入されている今、北海道は指定生産者団体がもつと強くなること。有志でホクレン本所に直接出向き、意見を呈して来た」とのことです。

供給責任とまで言われる今日、府県の生産が減り、主産地・北海道に一層の期待が高まる中、将来は二万トで日本一を目指そうとする意気込みが感じられました。

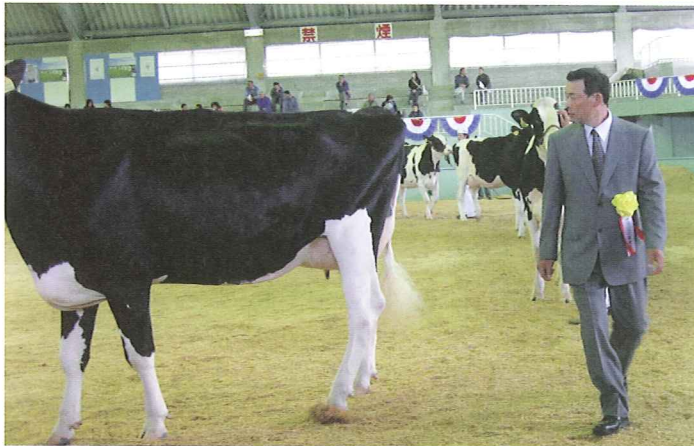
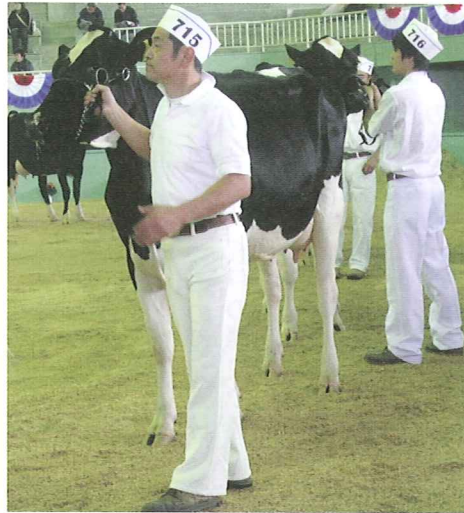
以降、時間の都合もあり、同牧場の専務取締役 鈴江勝美氏から場内を案内していただきました。

2008 北海道ホルスタインナショナルショウ

三日目(二十七日)と最終日の四日目(二十八日)は、安平町で開催されました全

道共進会を見学いたしました。この度は、当JAの組合員であり北海道ホルスタイン農協理事の山田光男氏を主任審査員として開催され、当JAからは二頭の出品となりました。

第七部(後代検定二歳クラス)で佐々木靖裕さんの出品牛が二等四席、第十三部(五歳クラス)で橋本幸



主任審査員の山田光男氏

二さんの出品牛が二等一席に入賞いたしました。詳しくは、次頁の共進会に掲載しているとおりでございます。なお、平成二十二年度の全国共進会が同会場で開催されることになっており、それに向けて、来年度は会場の改修整備のため、十勝管内音更町のホクレン市場で開催される運びとなっております。当JA、そして根室管内勢として、ますますのご活躍をご期待申し上げます。以上をもちまして全行程を無事終了し、中春別へと帰省いたしました。最後に、何かとお忙しいところ快く視察を受入れして下さいました両牧場、また、全道共進会へ出品された方々を始め、関係者の皆様に改めてお礼と労いを申し上げます。組合員皆様へのご報告とさせていただきます。

「みらい塾」塾生募集について

来年一月より、農協では担い手後継者を対象とした、酪農技術、経営技術、組織活動に係る知識、技術について総合的に学ぶための講座「みらい塾」を開講します。

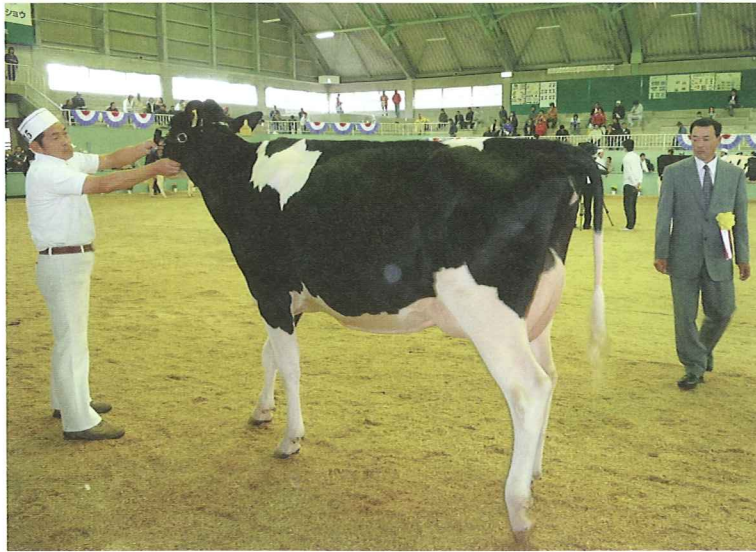
【募集要項】

- 一. 対 称 就農三年未満の農業担い手、若しくは組合長が認められた者。
- 二. 人 数 五人程度
- 三. 研修期間 (先着順とさせていただきます) 一カ年(繁忙期を除く)。毎月二日～四日程度を予定。
- 四. 研修内容 酪農技術の基礎、経営管理の基礎、組合組織運営について、先進地視察研修など。
- 五. 講 師 関係機関職員、農協職員。
- 六. その他 年一回の研修旅行を予定。
- 七. 申込期限 平成二十年十二月十五日

2008北海道ホルスタインナショナルショウ

根室ホルスタインの高レベルを実感

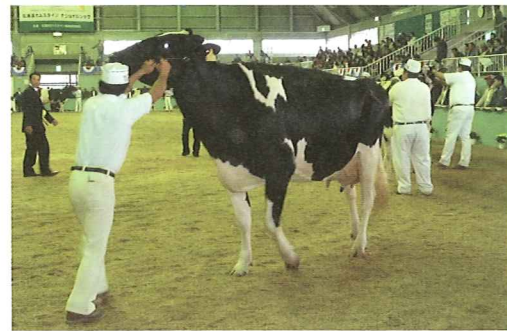
平成二十年九月二十七～二十八日の二日間、2008北海道ホルスタインナショナルショウが勇払郡安平町・北海道ホルスタイン共進会場で開催されました。



今年は例年より一週間遅く行なわれた為、肌寒く時折雨が降るなど天候にはそれほど恵まれませんでしたが、総出品頭数は三百九十頭うち府県七頭で行なわれ、根

管内からは五十七頭、そして当農協からは七部ウオーカー・マラソン・ブリトニー！佐々木靖裕さん出品、十三部アピリティファームフオーマチツク・橋本幸二さん出品の二頭と例年に無く寂しいものとなりましたが、なんといつも根室管内初となるオフィシャル・ジャッジという大変な名誉を山田光男さんが努めました。結果は二頭ともに二等賞入賞、入賞率100%でした。根

室管内からは五十七頭、そして当農協からは七部ウオーカー・マラソン・ブリトニー！佐々木靖裕さん出品、十三部アピリティファームフオーマチツク・橋本幸二さん出品の二頭と例年に無く寂しいものとなりましたが、なんといつも根室管内初となるオフィシャル・ジャッジという大変な名誉を山田光男さんが努めました。結果は二頭ともに二等賞入賞、入賞率100%でした。根



室管内は特に根室農協の活躍が目覚しく、五頭出品中四頭が一等賞、うち二頭が一等と素晴らしいものでした。全体で見ても入賞率は十勝、石狩に続き三番目、一頭一席も三頭と一位タイ。相変わらず根室ホルスタインのレベルの高さを示す事が出来ました。また、オフィシャル・ジャッジを務める山田光男さんのジャッジも、堂々とスピーディでまるで大舞台を楽しんでいるかの様な姿が印象的でした。

2008北海道ホルスタインナショナルショウ結果

区分	成績	名	号	生年月日	父	牛	父	牛	出品者	
7部	2等4席	ウオーカー	マラソン	ブリトニー	18.2.20	NLBC モチーフ	フェイテイアス	ET	ウオーカー マラソン サリー	佐々木靖裕
13部	2等1席	アピリティファーム	フオー	マチツク	15.9.12	コムスター	ストマチツク	ET	アピリティファーム フオー ローラ	橋本 幸二

- 開催日 平成20年9月27日～28日
- 開催場所 北海道ホルスタイン共進会場(安平町・早来)
オフィシャル・ジャッジ 山田 光男氏 別海町・酪農家
アソシエート・ジャッジ 高橋 忠司氏 帯広市・オールジャパンプリーディングサービス(株)指導部部長

区分	出品番号	名	号	父	牛	出品者	
GC	1401	ネルスチャート	シーナ	ダーハム	レーガンクレスト エルトン	ダーハム ET 佐呂間町 惣田 譲治	
RGC	1316	セノファーム	デュック	ブレンダ	リステル ラデュック	ET 岩見沢市 瀬能 剛	
SC	1401	ネルスチャート	シーナ	ダーハム	レーガンクレスト エルトン	ダーハム ET 佐呂間町 惣田 譲治	
RSC	1316	セノファーム	ラデュック	ブレンダ	リステル ラデュック	ET 岩見沢町 瀬野 剛	
IMC	1017	ハイロード	ダンディー	エピソード	レーガンクレスト	ダンディー ET 上土幌町 小椋 淳一	
RIMC	909	センターランド	マツト	ロイ	チャンピオン	ET 根室市 中川 佳代	
JC	514	ロックヘルス	ストーム	ミツシエル	パーシュート	セプテンパー	ストーム ET 江別市 岩田 淳一
RJC	412	DH	アタツク	チャンス	カルプレトアイ	H H チャンピオン ET 北見市 山内 誠	

管内成績
出品頭数57頭

区分	入賞頭数	入賞率
1等賞	11	19.3%
2等賞	27	17.4%
合計	38	66.7%

JA中春別成績
出品頭数2頭

区分	入賞頭数	入賞率
1等賞		%
2等賞	2	100%
合計	2	100%



10年、20年先を見据えた経営を目指す

先月ご紹介しました野矢貴志さんのご紹介で、中春別地区の藤倉香津靖さんをご紹介します。

香津靖さんは、昭和五十九年五月二日、父・紀夫さん、母・律子さんの三男として誕生されました。中春別小・中学校を卒業後、別海高等学校酪農科に進学されました。

高校卒業後は、北海道立農業大学に進み将来は家業を継ぎ酪農家になる事を視野に入れ勉強、実習にと励んだそうです。卒業と同時に地元中春別へ戻り家業に就かれました。

伝いをしていたそうです。牛舎の手伝いをして褒められることが何よりも嬉しく、自然と牛舎で過ごす時間も多くなつて、牛舎が遊び場だったと懐かしそうに当時は振り返っていました。

家業に就かれた当初は、一通りの作業手順を確実にこなす事を目指し、父・紀夫さんと相談しながら毎日、仕事に取り組んでいたそうです。今現在、仕事が好きやりがいを感じながら充実した毎日を過していると言ってくれました。

趣味は、体を動かすことが好きで毎週、ソフトボールで汗を流しているそうです。また、仲間や周囲の人達と接し、いろいろな事を学ぶ事ができ影響を受け、整備なども出来るようになって仕事にも役立っているようです。「周りの人達に恵まれ、公私ともに充実した毎日を過している」と話してくれました。

また、ご兄弟もそれぞれ酪農に携わる仕事に就かれていますので、今後も仲良くやって行きたいと香津靖さん。



最後に今後の目標について伺うと「父が築きあげてきた事をしっかりと受け継ぎ、施設などの能力を存分に活かせるように頑張りたい」と思っている。将来的には、規模拡大を視野に入れ10年、20年先を見据えた経営を実践して行くと同時に家族経営を支えて行きたい」と力強く語ってくれました。

次回は、香津靖さんのご紹介で中春別地区 相澤 孝太さんをご紹介します。

酪農^{あす}未来を若者達^{ひらく}

中春別地区 藤倉香津靖さん(24歳)

時に奥さんの 亜理沙さんとご結婚され、長女・梨緒ちゃん(十一月月)の良きお父さんとしても活躍中です。

幼い頃は、牛舎で過す時間が多く、牛舎の掃除や子牛にミルクを与えたりと手

観楓旅行

中春別年金友の会 美味しい料理とお酒に舌鼓

初日は、午後より農協前をバスで出発、参加者を乗せたバスが向かう先は、宿泊先のホテルきたふくろう。車中では隣どうしや近くの方と会話を弾ませながら、

車窓から見える紅葉を楽しみました。

ホテル到着後は、宴会までの間、温泉にのんびりと浸かって汗を流し、日頃の疲れを癒す方、部屋でくつろがれる方、それ



中春別農協年金友の会(会長・渡邊栄顕)では、10月15日から17日の2泊3日の日程で、川湯温泉へ観楓旅行に行つてまいりました。



ぞれ思いおもしろい時間を過ごされていました。夜の宴会では、渡邊会長の挨拶を合図に、おいしい食事、舌鼓を打ち、お酒を楽しみながら毎年恒例のカラオケ大会が始まりました。



自分の歌が一番だと言わんばかりに自慢の喉を披露する皆さん。途中から音楽に乗りながらダンスも加わり、より一層会場は盛り上がりました。

二日目は、観光へ行かれる方、パークゴルフを楽しむ方とそれぞれに別れました。観光では、美幌峠、摩周湖、硫黄山と川湯近郊の名所を巡り、パークゴルフは、川湯駅の前にあるパークゴルフ場で普段とは違うコースを楽しみました。

その晩の宴会では、ビンゴ大会が行われ参加賞(農協提供)のほか抽選で十六人に新鮮な秋刀魚またはホッ



のお楽しみ会が今年最後の行事となりますので、隣近所お誘い合わせの上、たくさんの方々参加をお待ちしております。

キの引換券(ホテル提供)が当たるなど、豪華賞品を手にするために皆さん気合がはいっておりました。その後の二次会では、娯楽室などを利用し、思いおもいに最終日の夜を楽しんでおりました。

今回の旅行も事故などなく無事に終われたことを心より嬉しく思います。次回

営農対策情報

根室農業改良普及センター

普及指導員 三宅 裕子

草地の簡易更新



飼料高騰の波を受け、草地の善し悪しによって乳生産への効率が大きく左右される時代を迎えています。土づくり、草づくりは、必ず牛づくりにつながります。草地の植生改善や生産性向上をめざし、低コストで導入しやすい簡易更新技術について紹介致します。

1. 表層攪拌法 (写真1・2)

完全更新に比べ、プラウ耕がない分工事費が安くなります。

その他の肥料・種子代は

同じですが、シバムギやリードがない場合は、既存の植生を活かすことができます。



2. 作溝法 (写真3・4)

専用機械で溝を切つて播種します。既存植生を活かすこともできます。

永年草地や雑草が多い場合は土が固くなつて溝が切れない場合がありますので

比較的更新年度の早い草地に向いています。

機械によって施肥の有無、播種溝の間隔や深さなどが違います。

3. 部分耕耘法 (写真5)

専用機械を使って部分的に、耕起、播種、施肥、鎮圧までを一度に行います。



※シバムギやリードカリーなどの雑草を消したい時には、別途普及センターまでご相談下さい。

十勝の美味しいものを堪能しました

女性部では、十月一日から二日に昨年と同様十勝方面へ研修旅行へ行ってきました。

参加者十四人を乗せたバスは弟子屈、

足寄を通り幕別町にある「ガーデンパーク日新の丘直村」へ向かいました。

到着後、この村自慢のレストラン「四分度（しぶぶんど）」で野菜中心のバイキングやフランス人シェフの作る豆腐を使ったデザートを頂きました。昼食後は、標高百二十八

m、二十一haの広大な面積に千種類以上の農薬をほとんど使用しない方法で育てられた草花や、樹木がある村内のガーデンを見学し

ました。時期的に花の見ごろは終わっていましたが、栗やりんごなど実りの物が多くなっていて、まだまだ十分楽しむことができました。



柳月スイートピアガーデンで柳月の歴史とお菓子の由来の説明を聴きました

その後、宿

泊先の十勝川温泉「観月苑」へ行き、美人の湯と言われる植物性ミネラル温泉に浸かって、お肌や日頃の疲れを癒しました。

二日目は音更町にある「柳月スイートピアガーデン」で、柳月のお菓子を全て製造している工場を、柳月の歴史や名物「三方六」の由来などを



ガイドの方に紹介して頂きながら見学しました。その後、参加された皆さんは、たくさんのお土産を買っていました。

一泊二日の研修は天候にも恵まれ、有意義な研修旅行となりました。参加されたみなさん大変お疲れ様でした。

充実した視察・研修と他地区との親睦を はかりました

● J A根室地区女性協幹部視察研修

九月二十四日から二十六日にかけて J A 根室地区女性協議会幹部研修が行われ、当農協女性部からは青野美幸部長が参加しました。

バスで各農協を経由しながら十勝方面へ向かいました。一日目は池田町にある「ワ

イン城」を見学し、その後、十勝川温泉にある観月苑に宿泊して、ゆつくりと温泉につかり明日の研修に備えました。

二日目はまず、帯広市にある真鍋庭園を見学しました。シンボルツリーのフンゲ

ンストウヒや手入れの行き届いた庭園を楽しみました。次に中札内村へ移動し、「想いやり牛乳」という日本で唯一生そのままで飲める（無殺菌）牛乳を販売している、想

いやりファームへ行き代表取締役社長の長谷川氏に、会社や牛への理念などを聞

かせて頂き、参加した方たちは熱心に質問やメモを取っていました。その後、花畑牧場、紫竹ガーデン、八千代公共育成牧場、ガーデンパーク日新の丘正直村を見学しました。

三日目は音更町にある柳月スイートピアガーデンへ行き、代表菓子「三方六」などを製造する様子を見学後、クッキー作り体験を行い、皆さん思い思いのメッセージや絵をクッキーに描いていました。

二泊三日の研修でしたが、他地区との親睦を深めることができ、また多くのことを学び大変充実した研修となりました。



のんびりとした時間を味わう

● 女性部木の実部会一泊研修



毎年恒例の木の実部会一泊研修旅行。十一人の部会員が参加して、日帰り可能な尾岱沼のうたせ屋で一泊の旅行を楽しみました。

参加者は、留守の間にかあつてもすぐ帰れる距離とあって、安心して参加できた様子でした。いつも来ている尾岱沼も一泊すると

皆さんお楽しみ夜の食事・宴会では、捕れたばかりの新鮮な地元の名物・北海シマエビやカニ、魚介類を堪能しました。

また、ゲームも大いに盛り上がり、話もつきることなく、日頃のストレスを解消されたのではないでしょうか。温泉にのんびりつかることもでき、明日からの活力を得ていたようでした。

楽しくて、おいしくて、お土産つき

●フレッシュユミセス部会ソーセージ教室

十月十七日、別海町加工センターにてソーセージ作

で、添加物が一切入っていないソーセージってどんな



親子で挑戦、手作りソーセージ

味なのでしょ
うか？ 参加
された皆さん
興味しんしん
で挑戦。肉を
しぼりだすと
ころから適当
な大きさに区
切り、それを
切断、作りた
てを食べると
ころまで体験
する事ができ
ました。

り体験教室を開催いたしま
した。

子供たちも大好きなソー
セージですが、本来の素材

ーセージは、クセが無く誰
でも美味しくいただけます。

子供達へのお土産ができ
ました。

去る十月二十一日、店舗収穫祭が店舗前駐車場で行われ
ました。当日は多くの方々の来場者で、会場は賑わい
を見せておりました。

青年部は、「牛ステーキ」、
「骨付きソーセージ」、「ハ
ンバーグ」の試食及び販売
を行いました。会場には、
試食用の三品の焼き上がる
香ばしい匂いが漂い、それ
につられるように次々とお
客さんが並ばれ、お目当て
の品をお買い求めていただ
き、販売のほうも好評でし
た。

青年部、女性部が 牛肉、乳製品を販売

店舗 収穫祭



また、女性部はバターや
チーズ、ヨーグルトといっ
た乳製品の販売と、当日は



少々肌寒い中での開催でし
たので「あつあつのミルク
豚汁」、「チーズたこ焼き」、
「甘酒」、「コーヒータン
の無料配布は味も評判、ま
た、冷えた体を温めるのに
も大変好評でした。

ミルク王国横の芝生では
フリーマーケットも開催さ
れ、手作りの品などが数多
く提供され、こちらもたく
さんのお客さんで賑わいま
した。
参加された皆さんお疲れ
様でした。

家庭介護教室 を開催

根室農業会館を会場に九月十七日、介護方法や介護予防、介護者の健康づくり等についての知識・技術を習得していただくために家庭介護教室が開かれました。

管内J Aの女性部員など、あわせて二十三人が参加し、身近な家庭介護の基礎を学びました。

この日は、J A北海道中央会地域振興課 坂本治三考査役より「介護保険についての話を聞いた後、グループごとに分かれ、講義と実習を行いました。ベッドメーカーキング(シート交換)や食事介



助、体位変換、移動の介助やベッドからの起こし方、オムツ交換などを行いました。少しのコツで同じ動作がずいぶん楽になる、体に負担がかからない、安全なお世話ができるなど、ずいぶんと違ってくることを身をもって体験しました。

参加者は、今介護をしている人、これからすることになる人と様々ですが、介護する側とされる側お互いが気持ちよくいられるように接することが大切だと実感し、今後役に立てて頂きたいと思います。

中春別地区・佐々木茂成さん

地域への振興活動が取り上げられる

中春別地区の佐々木茂成さんが、日頃から取組まれている「別海ミルク王国」・自然に親しむ会などの地域振興活動について、北海道新聞十勝帯広版にて取り上げられました。

十勝出身者で、様々な分

野で活躍している方々を紹介しているコーナーにて現在、佐々木茂成さんは「関係機関や周囲の人達に恵まれ活動してこれた。とても嬉しく皆さんに感謝したい」と述べておりました。今後の各種活動に期待しております。

第4回 緑・花いっぱいコンテスト

中春別農協女性部(部長 青野美幸)主催により、

緑・花に親しんでもらおうと開催されている『緑・花いっぱいコンテスト』は、去る九月三十日に終了いたしました。たくさんのご応募ありがとうございました。

十月初旬の一般投票と厳正なる審査の結果、コンテナ部門・ガーデン部門・農場看板部門の三部門優秀賞が決定いたしました！

コンテナ部門

上神静子さん

ガーデン部門

渡辺泰子さん

農場看板部門

太田友子さん

優秀賞に選ばれた方は、十月二十一日開催のAコープ収穫祭会場にて発表され、「花とみどりの賞金二万円」が贈られました。

自らの周りの環境をきれいに飾る事の出来る、緑や花を最大限に使いそれを評価されるのは、なんと嬉しいものです。皆さんも次回のコンテストが開催された時には是非応募してみてください。

皆様のご協力により1日皆貯金7,600万円の貯金額！

「貯蓄の日」10月22日、職員が各家庭を訪問し一日皆貯金の推進を行い、皆様のご協力で76,000千円の貯金額となりました。昨年よりも若干下回る貯金額ですが、来年は更なる向上を目指していきたいと思っております。

ご協力をいただいた皆様方には心よりお礼申し上げます。

今後も、皆様の生活にお役に立てる「JA貯金」として頑張りますので、宜しくお願い致します。



紹介された新聞を片手によるこびを語る佐々木さん



平成二十年十月十六日(木)

議案

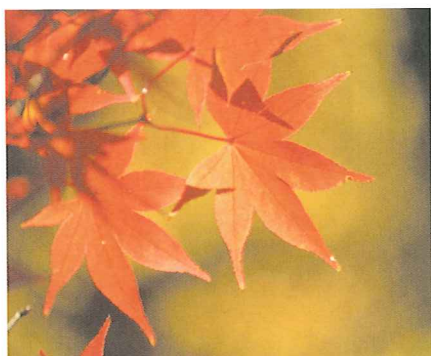
- 一. J A全国監査機構監査に伴う改善事項の回答について
- 二. 平成二十年度下半期余裕金運用計画額および運用方針について
- 三. リース契約について
- 四. 固定資産の実査について
- 五. 営農貯金取扱要領の変更について
- 六. 平成二十一営農年度営

報告事項

- 一. 平成二十年度九月末財務状況について
- 二. 平成二十年度九月末基準決算見直しについて
- 三. 税務署調査の終了について
- 四. 出資増口に係る出資予約貯金口座開設の取り進めについて
- 五. 平成二十年度J A共済コンプライアンス点検結果について
- 六. 平成二十年度九月末購買事業実績について
- 七. 平成二十年度九月末棚卸結果について
- 八. 平成二十年度九月末営農生産関連実績について
- 九. 第二十五回「菊と緑の

以下、原案通り承認

- 十. 農基本方針(案)について
- 十一. 平成二十年度地域酪農基盤維持対策生産枠確保事業(案)について
- 十二. 中山間事業に係る資金貸付について
- 十三. 会inべつかい「実施結果について
- 十四. 北海道ホルスタインナショナルショウ出品成績について
- 十五. 平成二十年度糞尿利用草地整備改良事業に係る実績について
- 十六. 平成二十年度夏期放牧牛の下牧について
- 十七. 共和育成牧場預託牛の事故に対する互助会規程による見舞金の支払いについて
- 十八. (社)全国開拓振興協会海外農業事情研修への参加について



9月 乳質乳価一覽表

(単位:円/kg)

9月分乳代支払単価

		単価	算出基礎		支乳	前年	差
乳脂肪分		742.803			28.96	26.45	2.51
無脂乳固形分		472.109			40.9	37.25	3.65
補給金		3.2704			3.27	3.43	-0.16
計画チーズ奨励金							
乳質単価	生菌数	ランク1	2	29,935,997.6kg	3.66	3.66	0.00
		ランク2	0	6,374,379.8kg			
		ランク3	-3	176,679.5kg			
	体細胞数	ランク1	2	250,188,750.5kg			
		ランク2	1	29,983,411.1kg			
		ランク1	-2	4,304,905.5kg			
特別対策		ランク2					
合計					76.79	70.79	6.00

項目	単価(円)/kg %	
乳脂肪分①	28円96銭	
無脂乳固形分②	40円90銭	
補給金③	3円27銭	
チーズ奨励金④		
脂肪率	全道	3.90%
	農協	3.89%
無脂固形分率	全道	8.66%
	農協	8.61%
成分乳価	全道	73円13銭
①+②+③+④-⑤	農協	72円83銭
乳質乳価⑥	全道	3円66銭
	農協	3円67銭
乳代合計	全道	76円79銭
	農協	76円50銭
⑤+⑥	差異	円-29銭

エゾムラサキツツジ(蝦夷紫躑躅)



身近な樹木に触れ、名前を知り
自然ともっと仲良くなるろう

寒地の山、特に岩場などに生える半常緑樹で木の高さは2mの特徴です。枝はよく分岐します。

名の由来については定説はないようです。一般に「躑躅」(ツツジ)はこの漢字を書きますが、そのいわれは羊がツツジを食べ、躑(テキ)躑(シヨク)、つまり「かがんで、ここむ」で死んだところから名づけられたといえます。本来の漢字は羊躑躅で語源は朝鮮語です。

新鮮な春を感じさせる花で北海道に自生するツツジ類はエゾムラサキツツジ、ムラサキヤシオ、エゾツツジなどがあります。材としては使用していませんが、庭木、公園などの景観樹として植えられています。また、ツツジは園芸種としても多くの種類があります。

エゾムラサキツツジの花は紅紫色です。この変種としてシロバナトキワツツジは花の色が淡黄色～帯黄白色などが、まれに道内に自生しています。



ニューフロンティアファームの樹木図鑑より転載・抜粋

編集後記

▼十一月に入って急に朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。沿道の木々の葉もすっかり落ち、いよいよ草木も冬支度といったところでしょうか。皆さん風邪などひかれていないでしょうか。天気予報を見ても雨マークから雪ダルマのマークにかわって、ここ道東地方もいよいよ長く厳しい冬がもうすぐそこまで来ています。

▼さて、中春別地区では、毎年恒例となっております収穫祭が行われました。地域の仲間が集い、各地区対抗の競技を通して親睦を深められたのではないのでしょうか。残念な事に当日は天候に恵まれませんでした。それでも皆さん楽しい一時を過ごされたのではないのでしょうか。

▼店舗収穫祭では、青年部、女性部が参加して牛肉の試食販売、乳製品の販売、乳製品を使った料理の無料配布などが行われ、会場となりました店舗前は、大勢の人達で賑わいました。

▼朝晩ブラックアイスバーンなどにより道路状況が日々変わります。車を運転される方、歩行者の方は充分気を付け下さい。